

守山市発達支援センターだより

令和2年12月号(令和2年12月15日発行)

守山市発達支援センター：守山市下之郷三丁目2番5号 すこやかセンター内

Tel : 077-582-1158 Fax : 077-581-1628

シリーズ 就労支援について③

守山市発達支援センターでは発達障害の方、またはその疑いのある方に対して、就労支援事業を実施しています。今年度は4回シリーズで就労支援についてお伝えします。第3回目は「障害のある人の就職活動について」です。



～障害のある人の就職活動について～

障害のある人の具体的な就職活動について、まず必要なことは、自らの障害を求人先の事業所に伝えるのか(オープン) また、反対に伝えないのか(クローズ) を十分に検討する必要があります。

障害を伝える場合

- ・障害者雇用求人に応募できる。
- ・障害のことを知られるのでは…という不安を抱かなくてもよい。また、通院時間の確保や職場で服薬することに対する不安が少なくなる。
- ・苦手な仕事を理解してもらえる。

メリット

- ・職場で、障害があることを周知される。
 - ・仕事内容は軽作業が多い。
 - ・障害者雇用求人は少なく、また、正社員採用も多くはない。
- ※一般求人に応募ができないわけではない。

デメリット

障害を伝えない場合

- ・障害があっても健常者と同じ働きができるという自己効力感が保てる。
- ・多数の職種から選択ができる。
- ・求人数が多くなり、収入も増える。

メリット

- ・職場で障害があることを隠さなければならない。
- ・通院時間の確保に困難を来す場合がある。
- ・心身状態において職場の人に相談がしにくい。
- ・体調不良時に適度な休憩を取りにくいことがある。

デメリット

障害のある人の就職活動のステップ

まず、自らの障害を十分に理解したうえで、無理のない職種を選択することが大切となります。また、得意なことや技能、資格、経験に結びついた職種選択も長く勤めていくうえでは、重要となります。それらを踏まえて、どのような仕事があるのかを知り、その人に合った求人を探していくことが大切です。

仕事探しの場としては、ハローワーク、障害者求人合同説明会、求人サイト、人材紹介会社などがあります。応募先が決まれば、応募事業所の情報収集、勤務地の下調べ、履歴書や職務経歴書の作成、身だしなみや面接での質問への応答準備等、採用試験に向けての準備が必要です。

発達支援センターでは、採用試験を受けられる方に上述の準備を一緒に整えていくほか、以下のようなことをお伝えします。

- *面接当日は、約束時刻の10分前には到着しておくほうがよいでしょう。遅刻は厳禁です。万一、遅刻をしてしまう場合には、早急に事業所に連絡を入れましょう。
- *面接は緊張するものです。しかし、事前準備を十分することによって、緊張感は低下します。事前準備は怠らないようにしましょう。
- *内定をもらえれば、採用条件をしっかりと確認します。万一、採用条件が自分に合っていない場合は、十分に検討したうえで、辞退をすることも必要となります。辞退をする場合は、早めに内定先へ連絡を入れましょう。

～訪問相談員の先生方のおすすめ本～ part③

守山市では特別支援教育に精通した先生方に依頼し、市内校園での訪問相談を行っています。訪問相談の折に、ご紹介いただいた本の一部を掲載します。ぜひ、お手にとってみてください。

こうすればできる! 発達障害の子がいる保育園での集団づくり・クラスづくり

著者 福井 寿 発行 エンパワメント研究所



発達障害の子どもたちが、保育園や幼稚園で小さな自信を積み重ねていくためにはどのような集団づくりの取り組みを進めたらよいのか、また、保育士がチームとしてどう連携していけばよいのか、などわかりやすい方法を具体的に紹介しています。

続編：すぐに役立つ! 発達障害の子がいる保育園での集団づくり・クラスづくり Q&A

子ども達の支援を考えるための出発点は、子どもの視点に立つことから始まります。子ども達に見えている世界を捉えるために、発達の視点から子ども達の姿を捉えることの大切さについて、お伝えしたいと思います。

～発達の視点から子どもを捉えるとは？～

人間の発達は一直線上に進むのではなく、階段を上かのように段階的に進みます。

そして、その過程には発達の各段階が存在し、その時期固有の世界の感じ方・考え方があり、同じものを見ていたとしても、その時期の発達によって、子ども達の反応は異なります。

発達段階について知ることは、子どもの視点から見て、世界をどう捉えているのかを掴むことに繋がります。

“パトカー”を目にした1歳と4歳の子ども達の反応をイメージしてみると・・・

面白いものがあるから、お母さんに知らせよう!

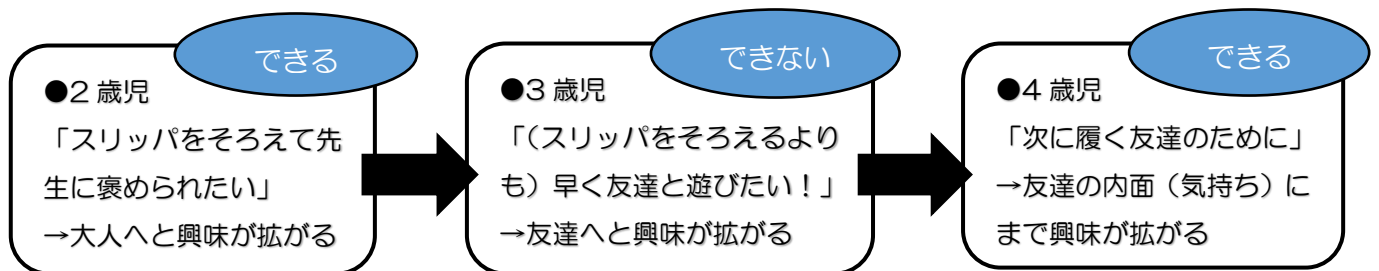
あうー

パトカーだ!
どろぼうを捕まえに来たのかな?

1歳頃の発達
「三項関係」の力⇒大人と一緒に同じものを共有することが楽しい時期

4歳頃の発達
「推理」する力⇒原因と結果の関係が分かり、「なぜ?」と考え始める時期

また、発達の段階を経る中で、「前にできていたことができなくなった」という姿に出会うことがあります。一体なぜでしょうか。2歳児の時にはできていたのに、3歳児でできなくなり、4歳児にまたできるようになった「トイレのスリッパをそろえる行動」を例に見てみましょう。



一面的には「できない」と感じられる3歳児の姿は、他者への興味が広がってきたからこそその姿でした。また、2歳児と4歳児の「できる」行動も、質的に異なる発達の姿であることが分かります。このように、発達の視点を持って子ども達の姿を捉えると、なぜ「できる」のか、なぜ「できないのか」をより豊かに観察することが可能となります。

私たちは時として、表面的な行動に目を奪われ、「できた」か「できなかった」という基準に当てはめて、子ども達を評価してしまうことがあります。それは、子どもに適応を求めたり、親や支援者の「できるようにさせなければ!」といった焦りを強めたりすることへと繋がってしまいます。

しかし、発達とは、過去の自分を乗り越えて、新しい自分を作り出していく営みと言えます。子ども達の「こんなことがしたい」「あんなふうになりたい」といった主体的な願いに導かれて獲得していくものです。

発達を学ぶことは、こうした目に見える行動の裏に潜む子どもの願いを捉え、支援を考えていくための第一歩となるのではないのでしょうか。

